

男性のHPVワクチン（ガーダシル）についての説明書

HPV（ヒトパピローマウイルス）とは

HPV（ヒトパピローマウイルス）は、子宮頸がんおよびその前がん病変をはじめ、外陰や膣に発症する病変（外陰上皮内腫瘍や膣上皮内腫瘍）、肛門がん（扁平上皮癌）およびその前がん病変、尖圭コンジローマを引き起こすウイルスです。

HPVワクチン（ガーダシル）とは

- 1 ガーダシルは、子宮頸がんおよびその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、肛門がん（扁平上皮癌）およびその前がん病変、尖圭コンジローマの発症に関係している HPV6、11、16、18 型の 4 つの HPV 型の感染を予防するワクチンです。
- 2 ガーダシルを接種しても、これらの方以外の HPV 感染および病変発症の予防効果は期待できません。また、すでにこれらの HPV 型に感染している人に対してガーダシルを接種しても、ウイルスを排除したり、発症している子宮頸がんや前がん病変などの進行を遅らせたり、治療することはできません。
- 3 ガーダシルの接種時にワクチンに含まれるいずれかの HPV 型に感染している場合、その HPV 型に対する予防効果は期待できませんが、これらすべての HPV 型に感染している可能性は低いため、1 つの型の HPV に感染している場合でも他の型の HPV に対する予防効果は期待できます。
- 4 HPV に感染する機会が少ない 10 代前半にガーダシルを接種することで、ワクチンに含まれる HPV 型による子宮頸がんおよびその前がん病変、外陰上皮内腫瘍、膣上皮内腫瘍、肛門がん（扁平上皮癌）およびその前がん病変、尖圭コンジローマの発症をより効果的に予防することができます。
- 5 予防効果の持続期間は確立していません（※ガーダシルで 14 年間までの追跡試験結果が報告されており、その期間までは予防効果の持続が確認されています。）

HPVワクチン（ガーダシル）の副反応について

- 1 ガーダシルの接種と関連性があると考えられた主な副反応は以下のとおりです。

頻度 10%以上	注射部位の痛み・赤み・腫れ
頻度 1～10%未満	頭痛、注射部位のかゆみ、発熱
頻度 0.1～1%未満	体がふらつくめまい、感覚が鈍くなる、傾眠（刺激がないと眠ってしまう）、体が回転しているように感じる、下痢、腹痛、悪心、手足の痛み、筋肉が硬くなる、手足の不快感、注射部位のしこり・出血・不快感・内出血・変色・知覚低下・熱感、だるさ、白血球数増加
頻度不明	皮膚局所の痛みと熱を伴った赤い腫れ、リンパ節の腫れ・痛み、失神、おう吐、間接の痛み、筋肉痛、注射部位の血腫、無力症（まぶたが下がる、物がだぶって見えるなど）、寒気、疲れ

- 2 過敏症反応（アナフィラキシー反応〈呼吸困難、目や唇のまわりの腫れなど〉、気管支痙攣〈発作的な息切れ〉、じんましんなど）、ギラン・バレー症候群（下から上に向かう両足のまひ）、血小板減少性紫斑病（鼻血、歯ぐきの出血、月経出血の増加など）、急性散在性脳脊髄炎（まひ、知覚障害、運動障害など）があらわれることがあります。このような症状が疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

次の方は接種を受けることができません

- 1 明らかに発熱している方（通常は 37.5℃を超える場合）。
- 2 重い急性疾患にかかっている方。
- 3 ガーダシルの成分（詳しくは医師にお尋ねください）によって、過敏症（通常接種後 30 分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応を含む）をおこしたことがある方
- 4 その他、かかりつけ医の医師に予防接種を受けないほうがよいと言われた方。

次の方は接種前に医師にご相談ください

- 1 血小板減少症や凝固障害を有する方。
- 2 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方。
- 3 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方。
- 4 過去にけいれん（ひきつけ）をおこしたことがある方
- 5 過去に免疫状態の異常を指摘されたことのある方もしくは先天性免疫不全症と診断された親近者がいる方。
- 6 ガーダシルの成分によって、アレルギーの症状がみられる可能性のある方。
- 7 他の HPV ワクチンの接種を受けたことがある方。

ガーダシル接種にあたっての注意点

- 1 ガーダシルは初回接種（1 回目）、2 カ月後（2 回目）、6 カ月後（3 回目）に、腕の筋肉内に接種します。
- 2 ガーダシルの十分な予防効果を得るためには 3 回接種する必要があります。

接種を受けた後の注意点

- 1 接種後は強く揉まず、軽く押さえる程度にとどめてください。
- 2 ガーダシル接種後に、注射による恐怖、痛みなどが原因で、気を失うことがあります。気を失って転倒してしまうことをさけるため、接種後すぐに帰宅せず、30 分程度は接種した医療機関で座って安静にし、医師とすぐに連絡がとれるようにしておいてください。
- 3 ガーダシルを接種した後に、注射した部位が腫れたり、痛むことがあります。これは、体内に備わっている抵抗力が注射した成分を異物として認識するためにおこります。通常は数日間程度で治まります。
- 4 接種後は、接種部位を清潔に保ってください。
- 5 接種当日は、過激な運動を控えてください。
- 6 接種した日の入浴は問題ありません。
- 7 接種後 1 週間は体調に注意し、気になる症状があるときは医師にご相談ください。

予防接種による健康被害救済制度について

接種を受けて、万が一健康被害が起きた場合には、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済の対象となる場合があります。併せて、市で加入している全国町村会総合賠償保険の対象となる場合もあります。予防接種後の健康被害の相談は、平川市子育て健康課までご相談ください。

接種を受ける方法

指定医療機関等に電話で予約を行い、予約した日時に接種を受けてください。